

プラットフォーム淡路島 島人交流と緊急・災害時の継続計画づくりで、  
より安心して暮らせる地域づくり

(プラットフォーム淡路島)

### 1 事業が目指すところ

令和3年度の事業の事業は以下の2つです。

- ① 転ばぬ先のプランづくり…30年以内に確実に島を襲う南海トラフ地震、新型コロナウイルスの感染の波が今後も想定される等々。それらの災厄の備えの一つとして、災害が発生しても、従来の事業が素早く復旧できるよう、あらゆる視点から対応する想定プラン(シュミレーション)を作っておく必要がある。組織的に弱い中小規模・零細事業者、NPO、各種団体も被災対象となり、大企業に比べてダメージは大きく、復興に時間が掛かる。災害・緊急時に事業を中止・中断の時間を短くするためにも、事業継続プラン(以下BCPと記す)を作成して居てほしいし、作成の意義を知らしめ、手順を学んでもらう。
- ② しまびと交流会…島内の少子高齢化、人口流出は著しい。過去2年間に渡って移住の実態や移住者との関わりを考えてきた。3年度は最近、島を第2拠点と位置付け、某人材派遣会社が移転。各種の事業が短期間で展開され始め、移住された方も増えた。島にとっては刺激や起爆剤となり、就業者が増え、若者の流出を防ぐかも知れない淡い望みを託す。半面、その移住者と居住者は生活様式や感覚(地域格差・年代など)の違いから、双方に日々暮らすなかで違和感や軋轢が生まれつつある。お節介だが、そんな違和感を払拭し、違いを認めあいながら豊かに暮らすためのお手伝いをする機会にしたい。

### 2 活動内容

☆11月20日(土) 南あわじ市広田公民館  
転ばぬ先のプランづくり 基本講座  
兵庫県立大学 加藤教授ら

☆11月27日(土) 南あわじ市広田公民館  
転ばぬ先のプランづくり 実践講座  
元大学非常勤講師 奈良昭彦氏

☆3月7日(月) 野島スコーラ  
しまびと交流会  
某人材派遣会社の移住者との交流  
1月に予定するも、まん延防止等措置により  
感染拡大を避けるため順延されてきた事業。



基本講座 講演等



実践講座 ワークショップ

<p>3月7日(月)実施予定 実施次第 添付 (まん延防止等措置解除後)</p>	<p>3月7日(月)実施予定 実施次第 添付 (まん延防止等措置解除後)</p>
--	--

しまびと交流会の交流状況

まとめと今後のお願い

### 3 成果と課題・問題点

- ① BCP を作成している会社と作成できていない会社の災害後の復旧の速さは、前者は後者に較べ数にして約2.5倍の会社で早かったと評価され、復旧が早く進んだと統計的に証明された。BCPは事業者にも有益に働いた帰結である。実践講座で想定範囲・数の膨大さと今まで気づかなかった(頭の中になかった)項目も多かった。作成し、多くの場面でそれらが意味付けられ、有効に活用されるためには、保存・運用・改善補完システム等を充実させることも炙り出された。作成すればそれで終わりではないBCPはあまりにも奥行き深く、幅広い。小規模・零細事業者は少しずつでもいいから、想定事例を積み重ね、体系的に蓄積することが望まれる。具体的にBCP作成に当たって、少人数でもいいから複数の方々(多

くの立場・役職)が想定できる事柄を出し合い、すべての事柄が共有・網羅され、記録されることが望まれた。しかし島内のBCPに対する考え、対応はこれらの考えに追いついていないし、その意識の低さも露呈した。(BCPという言葉は知っているが、どこから手を付ければいいかわからない。作成の人材も、作成する時間も、費用もない。緊急性を感じていない、BCPを作成されているが、見直しや変更・改善が出来ていない、災害の切迫感が薄い、つまり大方の事業者の方々には作成の意義を感じていない節がある。BCP作成への意識は知っていても計画づくりまで達していない。作成の意義や有効性に気づいていない、作成の意義について事業者と担当者に意識の温度差があるなど)の発言もあった。

今回、BCPの必要性を認識した事業者やその責任者をターゲットに開催したが、真口が狭かったようだ。つまり防災・減災の展開の一つとして、未来への想定(シュミレーション)に挑んだが、全般的に島内事業者にはBCPの意義や必要性の意識が未熟であったのかもしれない。今後もBCPやシュミレーションが生かされよう、BCP作成の大切さ・重要性を多くの機会・場で発信し続けていかなければならない。

②しまびと交流会は事業実施終了後、追記します。※

#### 4 今後の展望、成果の活用

##### ①転ばぬ先のプランづくり

災害は待ってくれない、腰を据えていては遅いかもしれないが、防災・減災の学習・啓発活動・避難訓練等の機会に、BCPの必要性・重要性・復興のスピードの速さについて発信していきたい。

今回、使った資料は、出席者、各市社会福祉協議会に提供し、事業者やその職員教育に活用して頂けるよう、データで提供した。

##### ②しまびと交流会(事業終了後、追記) ※

島に少しでも長く、居住者とうまく付き合いながら豊かに暮らしてもらうためには、地域の多くの機会・場面(学校や祭りも含む)に参加し、交流することで、理解しあえ、顔見知りになって人間関係を作られ、それが双方向に展開されることが大事である。

居住者も地元の良さ、ふるさとの誇りをしっかり伝えて頂き、緩やかで最小公倍数的な暗黙のルールづくりが醸成されるような仕組み作りを創り出すこと必要がある。私たち居住者は、自らの価値観を押し付けるだけでなく、抱きとめる許容力や韌性を持たなければならない。島においていただいたことに感謝し、共に支え、支えられる社会であり、将来展望を持ち、良心に鑑み、お付き合いが深められたら幸いである。

しまびと交流会の内容は、報告書としてまとめ、某人材派遣会社にお渡しすることとしている。某人材会社は社会貢献の一つとして、交流の意義を示してもらえているので、今後も定期的に交流やふれあいを重ねていきたい。交流で得た情報や悩み・思い・意見はコアメンバーの活動の場で発信し、偏見なく伝えていく。